

# 《コロナウイルス感染予防マニュアル》

## 1、コロナウイルスの感染リスクが高い場所（ノー3密）へ行かない

- ①換気の悪い密閉空間（飲食店、カラオケボックス、映画館など）
- ②多数が集まる密集場所（デパート、電車など）
- ③間近で会話や発生をする密接場面（2m以上の距離を保つ）

## 2、感染予防に努める（同居人全員が、感染しないよう日頃から予防）

- ①小まめな手洗いとアルコール消毒
- ②食事をする直前、食事を作る直前
- ③外出先から帰宅した直後
- ④人が触れた場所をさわった後（ドアノブ・つり革・エレベーターボタンなど）
- ⑤手洗いができない場合は、アルコール消毒・除菌シートも有効
- ⑥工場内・社内でのマスク着用（1人/1日/1枚）、プライベートでも推奨

## 3、情報の共有と更新（同居人、職場、学校、地域）

- ①同居人の1人がコロナウイルスに感染し、普段通り生活した場合100%二次感染する
- ②空気感染（空間で3時間生存する）・飛沫感染・接触感染
- ③同居人が感染しない為にも、同居人同士で職場・学校での情報を共有し、生活環境内にウイルスを持ち込まないようにする事が最優先
- ④万が一、手指・マスク等にウイルスが付着したまま帰宅した場合でも、手洗い・うがい・殺菌・消毒などの手段で、ウイルスを物理的に排除・死滅する事ができる
- ⑤コロナウイルスを目・鼻・口の粘膜から、体内に取り込まなければ感染しない事から、手洗い・うがい・殺菌・消毒が重要になる事がわかる
- ⑥言い換えれば、体内に取り込まれないと感染しない事から、生活環境内に潜んでいる可能性は非常に高く、たまたま体内に取り込まれていないだけかもしれない
- ⑦ウイルスは目には見えないので、近くに潜んでいる事を想定して行動する事が重要

## 4、感染疑い（体調不良の場合、些細なことでも迷わず上長への報告）

### 4-1 感染しているか？感染していないか？の見分け方

- ①コロナウイルスに感染している場合でも、体に現れる症状・自覚症状共に十人十色  
なぜなら、体内に侵入したウイルスの数、体力の差、持病があるか、健康体か否かな  
どの違いで症状が変わる、また、自覚症状も本人の気持ち次第で、いかようにでもな  
り表現もできる
- ②コロナウイルスに感染した場合の主な症状は、倦怠感、疲労感、味覚障害、聴覚障  
害、微熱、嘔吐、下痢、のどの違和感、せき、高熱、呼吸障害などがあり、一般的な  
風邪と症状が似ている為、体に現れる症状や自覚症状だけで正確な判別は不可能  
また、自覚症状がない場合でも感染している事が多々ある（不顕性感染）この場合  
でも、人人感染は起こる（二次感染→三次感染→）
- ③症状が一般的な風邪か、コロナウイルス感染かの瞬時の判別は困難なため、可能性が  
0%でない限り「コロナウイルスに感染しているかもしれない」と、疑って対処する事  
が重要
- ④弊社全従業員は、些細な体調不良でも、上長に対し、速やかな「報告義務」が責務
- ⑤明らかにコロナウイルス感染が疑われる場合は入社せず、上長に電話連絡し指示を仰  
ぐ
- ⑥報告を受けた上長は、品管責任者に対し速やかに報告し指示を仰ぐ
- ⑦感染疑い者本人は、管轄の行政機関（別紙）へ連絡し指示を仰ぐ

### 4-2 「コロナウイルス感染疑い者に対する調査票」の運用（対コロナ調査票/作成中）

- ①コロナウイルス感染疑い者が発生した場合、「調査票」の項目に則り、対象者本人へ電  
話で聞き取り調査を実施し、即日中に品管責任者に対し提出する
- ②調査票記入の必須事項「各項目もれなく記入」注意事項「治癒するまで追跡調査を行  
い最後まで1枚で運用する為、日付記入は左上詰めで順次記入、治癒後はファイル」

## 5、感染

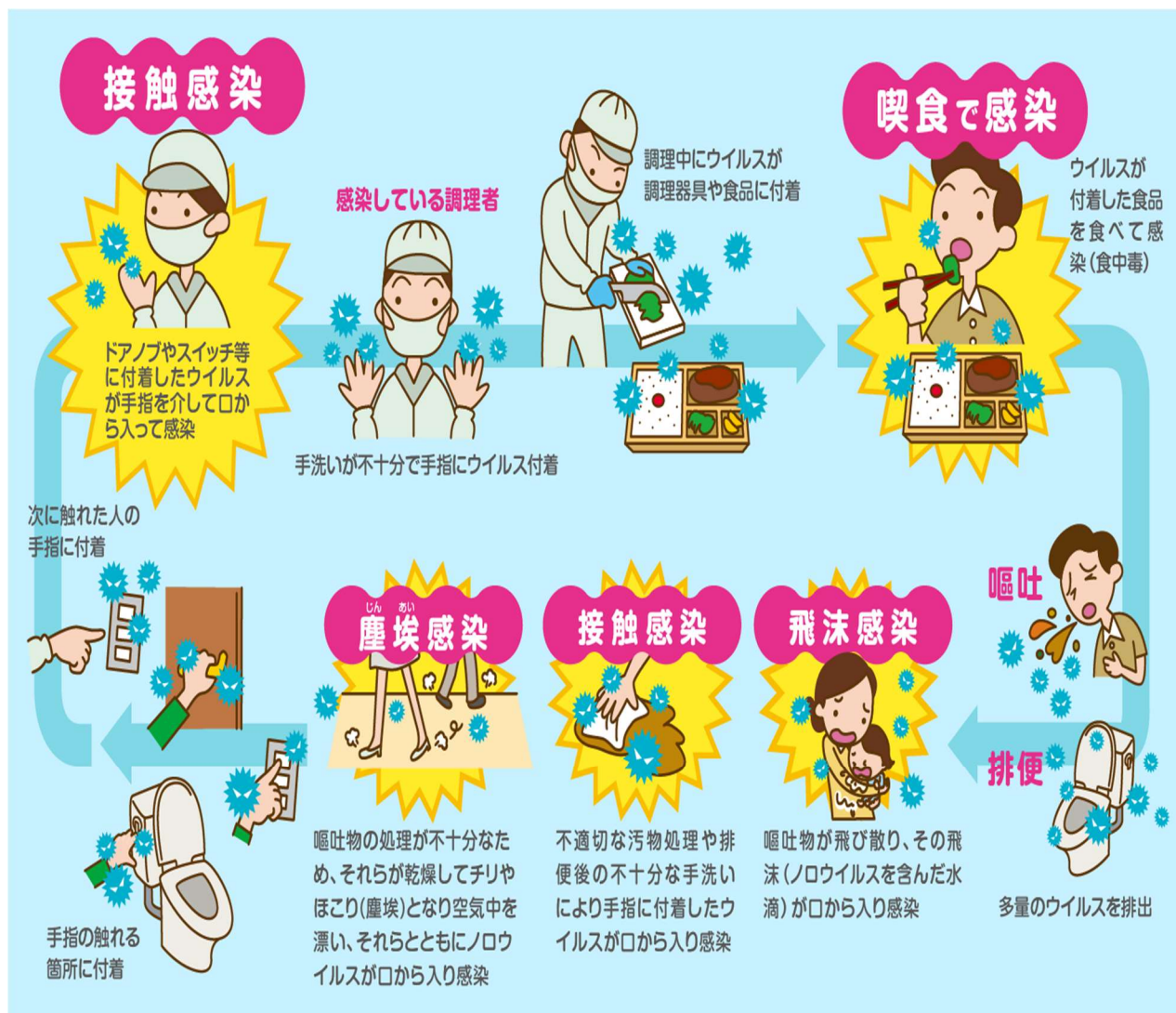
### 5-1 無症候性キャリア（不顕性感染者）の怖さ

- ①潜伏期間：1～14日（平均5日）ウイルスが体内に侵入し、症状が出るまでの時間（ウ  
イルスが鼻腔・肺などに達し活動を始めるまでの時間）
- ②体の症状・自覚症状がないキャリアでも、感染している事は変わらない為、キャリア  
が知らないうちに感染源としてウイルスを至る所に付いたり、人から人へ感染させる
- ③当事者に自覚がない場合、対策の遅れや予防策・防止策が疎かになるため、実はこれ  
が一番厄介

- ④よって、全従業員一人一人が、手洗い、アルコール消毒、マスク、ノー3密、情報の共有、速やかな報告の「意識」を持ち、感染防止策を継続的に実施する必要がある  
なぜなら、たった1人の、たった1回の油断と気の緩みで、集団感染は簡単に起こる
- ⑤尚、コロナウイルスはノロウイルスとは違い、人が亡くなる確率（致死率）が圧倒的に高い為、人命に関わるウイルスとして頭に叩き込む

## 5-2 コロナウイルスに感染するシチュエーション

- ①スーパーで商品棚のリンゴを購入し、洗わずに皮を剥いて手で食べた
- ②電車のつり革を触った後、サンドイッチを食べた
- ③エレベーターで隣の人がクシャミをして、その飛沫を口から吸いこんだ
- ④町で通行人と肩がぶつかり、肩を手で押さえた、その後、おにぎりを食べた
- ⑤ご近所さんと路上で立ち話の後、テレビを見ながら煎餅を食べた
- ⑥コロナウイルスに感染した父を持つ親友と、プロレスをして遊んだ など



図：感染経路/ノロウイルス（コロナウイルスも、ほぼ同等の感染経路）

### 5-3 同居人に1人でも感染疑い者が発生したら

- ①自分を含めて同居人に、1人でも新型コロナウイルス感染疑い者が発生したら、速やかに上長に報告を義務とする、なぜなら、報告の遅れが原因で社内にて二次感染に発展する危険性がある
- ②上記の最悪の事態を回避するためにも、自分自身だけの感染予防だけでは不十分、「体調が悪い場合は、すぐ自分に教えてほしい」と事前に同居人に伝え、毎日の会話や食事の場で皆の体調を把握する
- ③これを聞いて「大袈裟すぎる」と思っているあなた、あなたは確実に感染源になる
- ④新型コロナウイルスの感染源にならない為にも、1人1人個人レベルの意識が重要
- ⑤そして10分でも1分でも早い速やかな報告と、その後の適切な対処方法が、人命・会社・私達の生活を守る重要な鍵になる事を肝に銘じよ

### 5-4 コロナウイルス感染から治癒（出社）までの流れ

- ①感染
- ②潜伏期間(自覚症状なし)1~14日(平均5日/個人差あり)
- ③発症(自覚症状あり)/医療機関受診/検査/隔離治療  
発症(自覚症状がない、又は軽い場合)/検査又は自宅療養
- ④回復期(自覚症状/概ねなし)7~14日(キャリア/二次感染源/体調回復も出社NG)
- ⑤発症から約14日後、再検査
- ⑥検査結果が陰性の場合、本人と同居人の体調を調査し、医師と行政が決定
- ⑦検査結果が陽性の場合、7~14日空けて再検査
- ⑧再検査日程は、当事者の状況を考慮し、医師と行政が決定
- ⑨陰性になるまで、隔離治療は続く

※1 当事者が治癒しても、同居人に新型コロナウイルス感染疑い者や感染者がいる場合、この当事者もキャリア状態にある

※2 検査によって1度陰性になっても、ウイルスを再度摂取した場合、再度感染する

※3 同居人に感染者がいた場合、99%以上の確率で当事者は再度感染する

※4 同居人全員が完全治癒しなければ、出社できない場合が多々ある

※5 その期間は14日~1ヶ月以上に長引く場合がある(これを回避する為には、家庭内で殺菌・消毒・使用品の区分け・隔離などが必須)

※6 一度陰性になっても、微量のウイルスが体内に残っていた場合、再発する

※7 リアルタイムPCR法の陽性・陰性の精度は100%ではない(隠れ陽性・隠れ陰性)

※8 PCR法に変わる検査方法が運用されつつあるが、その精度はわからない

## 6、会社にウイルスも持ち込まない

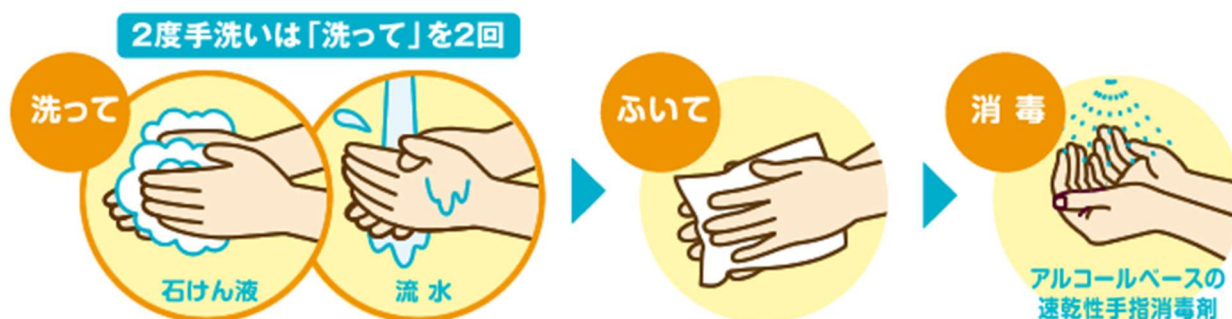
### 全従業員に対し、業務中のマスク・衛生手袋の着用を義務

#### 6-1 コロナウイルスは手を介しても広がる

- ①我々はあらゆる業務を手で行う。したがって、コロナウイルスを付けるか、付けないか手の管理方法で大きく変わる

#### 6-2 手を介してウイルスを拡散させない為に①（ドアノブ消毒）

- ①工場内全てのドアノブに、パストリーゼ 77、又は次亜塩素酸ナトリウム 200ppm を配置・運用
- ②パストリーゼ 77 を使用する場合、パストリーゼ 77 専用ボトルを必ず使う（ひと目で分かる）
- ③次亜塩素酸ナトリウム 200ppm のボトルを使用する場合、専用ボトルを使い、油性マジックでボトル自体に次亜 200ppm と明記（水性マジック・シール NG）
- ④鉄製品に次亜を噴霧した場合、錆びるため注意



## 7、コロナウイルスが付着していることを想定して殺す

- ①盛付タオルの洗浄、殺菌、乾燥、使用前の次亜殺菌 200ppm
- ②調理バットの洗浄、殺菌 200ppm、乾燥、使用前のアルコール製剤噴霧
- ③調理器具の洗浄、殺菌 200ppm、乾燥、使用前のアルコール製剤噴霧
- ④包丁・まな板・冷却ヘラの洗浄・殺菌・乾燥、使用前のアルコール製剤噴霧

## 8、清掃・殺菌の手順

### 8-1 トイレ（清掃・殺菌）

- ①トイレ清掃は製造終了後に行う（製造前は絶対行わない）
- ②清掃時、トイレ専用履物を使用する（製造用白衣・長靴は使用しない）
- ③清掃順序は、手洗い場→小便→大便の順に行う（万が一の場合、汚染範囲を最小限にする為）
- ④清掃には、ペーパータオル・使い捨て手袋を使用する（繰り返し使う雑巾・ゴム手袋は使用しない）
- ⑤トイレ専用洗剤で洗浄後、次亜塩素酸ナトリウム 200ppm を噴霧する（喚起を行いながら、便座・便器・便器のふた・タンクレバー・ドアノブ・履物・床面全体など、トイレ空間全体を殺菌）
- ⑥使用後の清掃用具は、洗浄→水切り→次亜塩素酸ナトリウム 200ppm（5分間浸水殺菌）、または、次亜塩素酸ナトリウム 200ppm を全体にたっぷり噴霧→専用保管場所に保管（喚起）
- ⑦トイレ清掃に使用したペーパータオル・使い捨て手袋が入ったゴミ袋は、清掃終了後、ゴミ袋の口をしっかりと結びゴミ置き場に捨てる（清掃に使用したペーパータオル・使い捨て手袋が、トイレのゴミ箱の中に、そのまま残っている状態は厳禁）
- ⑧最終退勤者は、トイレ全体にアルコール製剤、または、次亜塩素酸ナトリウム 200ppm を噴霧し退社する



図：ノロウイルス（コロナウイルスに対しても、清掃手順、注意点は同等）

## 8-2 事務所（清掃・殺菌）

- ①始業前・終業時の1日2回行う
- ②使い捨て手袋を着用する
- ③3～4枚重ねたペーパータオルにアルコール製剤、又は、次亜塩素酸ナトリウム200ppmを2～3回噴霧する
- ④このペーパータオルで、電話受話器・電話本体プッシュダイヤル・机・引き出し・パソコンキーボード・無線機・などを拭く（拭く範囲に応じてペーパータオルを数回交換する）
- ⑤床面全体にアルコール製剤、または、次亜塩素酸ナトリウム200ppmを噴霧（喚起）
- ⑥最終退勤者は、事務所全体にアルコール製剤、または、次亜塩素酸ナトリウム200ppmを噴霧し退社する（電子機器注意）

※次亜臭で、体調不良・手荒れ・サビの原因になる場合はアルコール製剤を使用

## 8-3 車両（清掃・殺菌）

- ①終業時の1日1回行う
- ②使い捨て手袋を着用する
- ③3～4枚重ねたペーパータオルにアルコール製剤、又は、次亜塩素酸ナトリウム200ppmを2～3回噴霧する
- ④このペーパータオルで、ドアノブ・ハンドル・無線機・シートベルトなど運転者が触った場所を全て拭く（拭く範囲に応じてペーパータオルを数回交換する）
- ⑤床面全体にアルコール製剤、または、次亜塩素酸ナトリウム200ppmを噴霧（喚起）
- ⑥上記①～④の殺菌作業は、配送員1名につき担当1車両の担当制とする
- ⑦配送責任者は、全車両の最終確認を行う

※追加対策で使用した車両も必ず行う

※次亜臭で、体調不良・手荒れ・サビの原因になる場合はアルコール製剤を使用

## 8-4 工場内（清掃・殺菌）

- ①担当者が、始業前・終業時1日2回行う（また、作業工程時、適切に行う）
- ②使い捨て手袋を着用する
- ③アルコール製剤、又は、次亜塩素酸ナトリウム200ppmを使用する
- ④清掃殺菌場所は、調理器具・調理機器・盛付コンベア・作業台・調理バット・その他バット
- ⑤次亜塩素酸ナトリウム200ppmを噴霧（喚起）
- ⑥上記①～⑤の殺菌作業は、調理作業員全員で行い、製造責任者は最終確認を行う

※サビの原因になる場合はアルコール製剤を使用